ようこそ大阪自治労連へ

4月7日に吹田市労連（吹田市職労・吹田水労・吹田関連労組）の新採歓迎会が開催され、総勢200人が参加しました

新入職員のみなさん 就職おめでとうございます！

大阪自治労連は、入職されたみなさんを心より歓迎します。

「住民のために良い仕事がしたい」というみなさんの思いが実現できる、働きがいのある職場を、大阪自治労連の組合に入って、一緒につくっていきましょう。

4月1日、発令式へ向かう大阪市の新入職員へ加入を呼びかけた

おおさか自治体の仲間
発行：大阪自治労連（大阪自治体労働組合総連合）　2016年4月15日　No.322
〒530-0041 大阪市北区天神橋一丁目13番15号
大阪グリーン会館４階　☎06-6354-7201　FAX06-6354-7206
E-mail:mado@osaka-jichiroren.jp
URL:http://www.osaka-jichiroren.jp
発行人／荒田　功　　編集人／鴻村　博
毎月15日発行（１部10円）組合員の購読料は組合費に含まれています。

労働組合がなければ泣き寝入りしていました

大阪自治労連・公務公共一般労働組合 河内長野分会

分会長　塚本　みさ江さん（学校校務員・左）
才木（さいき）　一三（いちそう）さん　（学校校務員・右）
大谷　充子（あつこ）さん　（支援学級介助員・中）

昨年12月に河内長野の小中学校で教育委員会から１枚の紙が配布されました。「来年から小中学校の校務員業務と中学校配膳員を廃止するので、全員解雇する」－とんでもない雇い止めの通知でした。「こんな理不尽なことは許せない」と立ち上がり、公務公共一般・河内長野分会を結成しました。そして、たたかいの中で、組合員全員の雇用を守ることができました。

「横のつながり」がなかった私たち これからは相談できる仲間がいます

雇い止め――自分ひとりが我慢する問題ではない

塚本みさ江分会長は「これまで、報酬が一方的に減らされるなどの通知はありましたが、５年間の更新のたび『試験があるので我慢しよう。仕事があるだけまだまし』と自分にいい聞かせてきました」と語ります。

その根底には、年を重ねるごとに校務員という仕事に愛着と誇りを持ってきていたので、他の仕事に代わるという選択肢が思い浮かばなかったという思いがありました。

しかし、今回の仕打ちは校務員と中学校配膳員39人の生活、人間としての誇りをずたずたに踏みにじる行為。「このままなすすべもなく、３月を迎えるしかできないのか？自分ひとり我慢すればいいというものじゃない！」と考えていた時、大阪自治労連や教職員組合の仲間から「一緒にがんばりましょう」と声がかかり、状況が大きく変わっていきました。

当事者の私たちが立ち上がらなければ

塚本さんは「弱い立場の私たちに対してまわりの方が一生懸命がんばってくださる。当事者である私たちが立ち上がらなければと思い、組合加入用紙にサインをしました」と語ります。

才木一三さんも「一方的な通告に『え！』と頭が真っ白になり、来年からの仕事をどうするか、だんだん不安がこみ上げてきました。一人では泣き寝入りするしかないので、労働組合に加入しました」。そして大谷充子さんも「時間がない中、解決するには労働組合しかないと思った」と異口同音に思いを語ります。

団交で思いをぶつけることができた

労働組合ができて一番感じることは、まず「雇用を守ることができました」。そして「弱い立場の私たちも、団体交渉でしっかりと思いをぶつけることができました。この問題が起こるまで、横のつながりが作れなかったけれど、相談できる仲間が見つかりました」と安心した表情でしっかり語ってくれました。

今後の取り組みは、「労働組合について何も知らないので、毎月集まって勉強会をします。もちろん、仲間を誘って、労働組合に入ってもらい組合を大きくしていきたいです」と力強く答える３人でした。